

目的にあわせて新聞から情報を得、自分の主張を導き、自分なりの方法で表現出来る子ども

～子どもたちが、新聞から情報を得たくなるような場の設定と、新聞から表現力を学ぶ指導の方法～

飯田市立上郷小学校 湯本 正芳

一 実践の概要

- 1 小学校生活最後の年の出来事を思い出に綴るために毎日、新聞をスクラップし、要点をまとめることを楽しんでいる子どもたち

光村の国語の教科書の最初に、1年を通してこんなことをやってみようという例がいくつか紹介されている。その中で、「自分たちが1年かけてやっていきたいことはあるか」と問いかけたところ、殆どの子どもたちが、昨年度から当番制で行っていた新聞のスクラップをあげてきた。昨年度の経験もあり、子どもたちが、活動に見通しがもてたことが大きいと考えられる。しかし、毎日となると果たして続けるのだろうかという不安があったが、子どもたちの選択にゆだねることにした。

子どもたちのスクラップの例

その日にあった出来事を記録する子

コンパクトカー並み低燃費 トヨタ

5年ぶり全面改良

エスティマのハイブリッド車では、2代目、2400ccのガソリンエンジンに小型の高性能モーターを組み合わせ、最大出力百九十九馬力を発揮する。ガソリンとハイブリッドの両方を駆使し、燃費はガソリンモードで20km/L、ハイブリッドモードで20km/L。コンパクトカー並みの燃費という、室内空間を確保するために、ハイブリッド用バッテリーの配置を従来の後席床と前席床へ変更。3列目シートの下に格納が可能になり、より大型の荷物を積めるようになった。

価格は388万3千783円～464万4千750円で、月間販売目標は700台。ガソリン車との価格差は上級グレードで約110万円だが、ハイブリッド車はシート素材などで特別装備が多いため、実売差は50万円程度（トヨタ広報）という。相模原市の家は、18で78km/L、エスティマは12で20km/L。相模原市の家は、18で78km/L、エスティマは12で20km/L。相模原市の家は、18で78km/L、エスティマは12で20km/L。

温室効果ガスの20%削減に心血を注ぐ

「温室効果ガスの削減は重要な課題」として、中電電力は、高圧電力の削減や、再生エネルギーの活用など、さまざまな取り組みを進めている。中電電力は、高圧電力の削減や、再生エネルギーの活用など、さまざまな取り組みを進めている。

温室効果ガスを20%に減らすことを心がけてほしい。少しでもCO2削減に貢献できたらいいなと思います。

地球

10月17日(火)

運営委員会があった。ヒーローロボットのお話し会へ行った。

第三十回小学生多脚大会(長)が、飯田市立上郷小学校で開かれた。多脚大会は、毎年、飯田市立上郷小学校で開催されている。今年も、上郷小学校の児童が、多脚大会に出場した。今年の出場は、男子組が優勝した。男子組は、今年の出場は、男子組が優勝した。男子組は、今年の出場は、男子組が優勝した。

30人31脚全国大会

上郷小学校 6年組 劇的な

## 【考察】

子どもたちは、4月当初は記事を選ぶのにも時間がかかっていたが、毎日繰り返すことによって、短時間で自分の気に入った記事を見つけて、要点をまとめ、感想を書くことができるようになってきた。子どもたちが取り上げてくる内容は、自分の住んでいる地域のこと、自分が興味を持っているスポーツのこと、自分と同世代の仲間の記事等様々であるが、毎日新聞を広げて記事を読むという習慣はつき、その中から自分にあった記事を選択するという力もついてきている。土日は3日分やることになるため、一番気に入ったものを1日分だけやればよいことになっているが、自ら3日分やって来ている子が1/3くらいいる。また、新聞のスクラップにあわせて、その日に自分は何をしたのか、学校では何があったのか箇条書きに書き留める子も現れてきた。小学校生活最後の年の出来事をあとで振り返ったときに、世の中の動きと共に振り返れる貴重なスクラップになりつつあると考える。

また、5年生で当番制でその日の記事を書き抜いてきて、発表する活動を取り入れた頃は、読めない漢字が多く、当番になった子は必ず担任に「先生、これなんて読むの？」と聞きに来る姿があった。5年生の時に行ったNRTのテストで、国語の辞書活用能力の力が、このクラスは全国平均よりも顕著に劣っていた事実もあり、読めない漢字は担任に聞かずになるべく辞書でひくようにながしたところ、6年生の5月頃からは、漢字の読みを聞きに来る子は殆どなくなった。と同時に6年生で行ったNRTのテストでは、辞書の活用能力が全国平均を上回るという結果もついてきた。新聞の難しい漢字に抵抗なく読む機会が増えた結果と考えたい。6年生になった今でも毎日当番を決めて帰りの会で記事と感想を発表している。

## 2 新聞記者をゲストティーチャーとして招き、新聞作りを学び、新聞作りのコツがわかって自分の新聞に生かそうとする子どもたち

4年生の頃から、社会科のまとめを中心に新聞作りに取り組んできた子どもたちであるが、割付や見出し等、新聞の基本的なことについて学習した経験はなかった。新聞記者が教室まで来てくれて新聞作りを教えてくれる機会があることを知り、子どもたちに投げかけてみたところ、是非教えて欲しいと言うことになった。子どもたちは、真剣なまなざしで、1時間新聞作りについて学んでいった。

<その日の生活記録より>

今日は、学校に新聞を作る人たちが来ました。でも一時間はあっという間に終わってしまいました。教えてくれたのは新聞の作り方のポイントです。はじめに記者は、読む人のことを考えて新聞を作っていると言いました。つまり、読み手に素早く理解してもらいたいと言っていました。新聞には読みやすくする工夫があると言っていました。その他に取材のポイントも教えてくれました。それは5つのWと1つのHです。それは「いつ、だれが、どこで、何を、なぜ、どのように」という意味です。英語で言うと5つのWと1つのHがつくという意味。その他にもたくさんありました。今日はとても楽しかったです。

## 【考察】

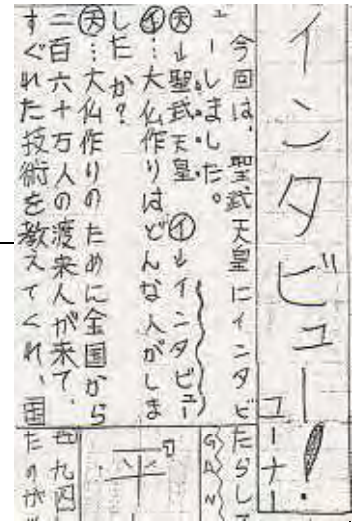
新聞記者が私たちのためにわざわざ長野から来てくれる、それだけで子どもたちはわくわくしてその1時間を迎えた。新聞記事作りの説明が始まると、食っているように授業に向かった。子どもたちの生活記録にも表れているように、今までの新聞作りでは意識していなかったことを多く得ることができる大切な1時間になった。また、普段担任が指導していることとの繰り返しの部分もあったが、新聞記者から話を聞くとその説得力に差があり、素直に子どもたちに入っていたようである。

子どもたちはこの話を聞いたあと、歴史新聞を製作していったが、それまでのものとは大きく違い、段組、見出し等、工夫されたものになっていた。新聞を作るときの基本的なことが理解でき、素直に自分の中に取り入れることができたと考える。

仮想インタビューコーナーは昨年度の6年生が作った新聞を見ておもしろいと思い、自分たちの新聞にも取り入れていくことにした。

### 3 夏休みの一課題に新聞作りを選択し、魅力的な新聞をつくり、クラスの2/3が子ども新聞コンクールに入選した

毎年行っている夏休みの一課題に、今年はクラスで新聞作りに取り組んでみてはと提案したところ、是非そうしたいということになり、一研究等はやめて全員で新聞作りに取り組むことになった。休み前に新聞のテーマや、取材方法等を簡単に指導した。休み明けの子ども新聞コンクールに全員の分を応募したところ、31人中21人が入選するという大変良いニュースが飛び込んできた。



#### 【考察】

4月から、毎日続けている新聞スクラップのおかげで、新聞記事に触れる機会が多かったこと、ゲストティーチャーを招いて新聞作りのコツについて教えてもらったことがこうした結果につながったと考える。地域のデパートで行われた展示会では、入選した子どもたちが親子で自分の作った新聞を満足そうに見に行く姿があった。子どもたちも自分たちのつくる新聞に自信を持ち始めている。

### 4 休み時間に友達と語り合いながら、自ら新聞を読む子どもたち

2学期に入り、8社から毎日新聞が届くようになった。廊下に新聞コーナーを設け、その日とその前の日の新聞をいつでも自由に読めるように環境を整えた。子どもたちは、この新聞をどのようにしていくかを見守ったところ、友達と語り合いながら、毎日、新聞に目を通す子どもたちの姿があった。



<新聞を読む子どもたち> →

#### 【考察】

4月からは、自分の家でとっている新聞に目を通してスクラップするという活動を行っていたが、その影響で、新聞を読むということに対する抵抗感はなくなっていた。9月に入り8社から新聞をいただけるという貴重な機会を得た。そこでその新聞をどのように活用していくか考えた。当番を決め、職員室からその日の新聞を教室まで持ってきて、読みやすいように教室の廊下に本日の分と昨日の分を重ねて自由に読めるような環境を整えた。そうしたところ、毎日、誰か誰かが友達と一緒に新聞に目を通して、語り合う姿が見られた。また、廊下に出してあるということもあり、他のクラスの子と一緒に新聞を読む姿も見られた。

新聞の横には、自分たちのスクラップも当番制で置くことになっており、友達がどんな記事に興味を持ったかもわかるようになっている。自分と同じ記事や、全く違う記事を見つけてくる友のスクラップに関心を示す子どもたちもいる。

また、昨日以前の新聞は、教室の後ろに積み上げてあり、いつでも振り返って見ることができるようになっている。



うに調整した。その他のテーマは1人や2人と少人数になってしまったが、似たようなテーマをあわせて考えるなどして2人以上のグループにして模造紙にまとめて切り抜き新聞を作ることにした。

各自のテーマが決まると、切り抜いた記事で不必要な記事も出てくる。だれがどの問題に取り組んでいるか明らかになったため、最初に、自分にとって不要な記事をお互いのところに交換した。手元に様々な記事が届いた中で、使える記事とそうでない記事を取捨選択した。記事を交換し合うことによって友のありがたみを感じる子が出たりして、思わぬ効果も出てきた。

まとめるときの約束として、まず題名を決めること、持っている記事のレイアウトを考えること、各記事に対する自分の考えを書くこと、グループ全体としての意見を書くことを確認した。

### (3) 仕上がりつつある新聞に自信を持ち、発表を楽しみに待つ子どもたち

グループごとにレイアウトや飾り、見やすさなどを工夫して仕上がりつつある切り抜き新聞を見て、子どもたちは、クラスの友にできあがった新聞を見てもらうのを楽しみに待つようになってきた。自分たちの考えたレイアウトに自信を示したり、他の班の様子を気にしたりする姿が見られた。自分たちの切り抜き新聞作りを楽しんでいる様子が伝わってくる。



みんな仕上げてくー！  
今日も環境をやりました。  
私達の班は今のところとても順調に進んでいます。  
由佳さんのアイデアでそれぞれの記事の意見を書くところにうさぎ動物絵を書いて、その上に意見を書いたらというアイデアができました。  
絵担当は丈と和己におまかせ色ぬりはせ子で仲良くぬっていきました。  
一番良い新聞を作ればいいと思います。

<仕上がりつつある切り抜き新聞>

今日、2時間も総合がありました。私は、絶滅の希少動物を調べています。私と真佑さんと圭治さんと純也さんです。私は、書く所の配置を純也さんと決めて、真佑さんは、動物の乗っている記事を新聞から切り取って、圭治さんは、題名の配置をまえてくれました。1人1人やるとかあるので、テキストと手書きよくやれてよかった。環境の記事は、あまりないけれど、希少動物の記事は、いいものはあって、はきはいいのびし、3人で工夫しています。早く完成して、みんなに見せたいです。

3、4時間目に、総合で環境のまとめをしました。私の所は、地球温暖化の現状、女子チームです。題名、レイアウトもできて、新聞は、はりつける所までいっただので、あとは、自分達の意見を加えて、かざりつけ、まし、完成です。早く完成したものがいいので、一生懸命やりました。

この3人の生活記録に見られるように、自分たちでまとめのアイデアを出しながら、新聞作りを楽しんでおり、完成を楽しみにしている。また、できあがった新聞を友に見せてがんばりを認めてもらいたいという願いも伝わってくる。いずれにしても主体的に切り抜き新聞作りに関わり、楽しんでいる様子がわかる。

(4) 環境問題の温暖化についての発表を聞いて、自分にできることを考え始めた子どもたち



＜温暖化の影響、

温暖化で地球は弱っている(現状)＞

2つのグループ発表を聞いた後の子どもたちの感想

○今、人が地球にできることのテーマのように、私たちに何ができるのか改めて考えさせられました。「うちエコ」も私たちの生活の中でCO<sub>2</sub>を減らすことができるので自分の生活を見直してみたいと思いました。

○温暖化は進んでいて、その温暖化を止められるのは人間しかいないということを、全国の人に知ってもらいたい。一人一人の心がけを大切にしていきたいと思う。今できることはなんだろう。

○温暖化で起こっていることがいっぱいわかりました。車でも温暖化を防ぐことができることがわかりました。知らないことを知ることができて良かったです。他の人が言っていた「一人一人の心がけが大切」というのを聞いて、私も心がけていきたいと思いました。

自分たちが調べたいテーマに従って、グループごとにまとめたものを順番に発表し、その発表について考えたことを話し合った。地球の温暖化についての発表を聞いたあとの子どもたちの考えより。

○温暖化のせいで水面が上がったり、アフリカが大変なことになってしまっているということがわかってびっくりしました。地球が困っているというのは本当だと思いました。

○今まで普通にしてきたことがこんなにも地球を壊していたんだと実感しました。どんどんCO<sub>2</sub>が増えているから、人間が対策を考えなければならないと思いました。

○この温暖化の問題は私たちが一生かけて解決しなければいけないと思います。地球は人間だけのものではない、動物も自然もみんな地球のものだから私たちはこの地球を助けなければいけないと思いました。

＜人間から地球へのおわび

こわした地球を今、元通りに(対策)＞



同じテーマをもったグループごとに模造紙1枚のまとめをつくった。自分たちが興味を持った環境に関する記事を選び、その記事を読んで、自分の考えを書き、グループとしての意見を発信するという活動であったが、子どもたちは、自分たちなりにレイアウトも考えて上手にまとめた。そして、発表会を行ったが、どのグループの発表も真剣に聞く子どもたちの姿があった。そして、感想には、自分たちができることをやっていかないと地球がどんどん弱ってしまうことが理解できた記述があった。



<調べたことを友の前で発表する>

**グループ分けのテーマ** (2人～5人の8グループ)

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| ○進む地球温暖化            | ○どうなる絶滅寸前の動物たち  |
| ○温暖化の影響             | ○なぜ消える、絶滅希少動物   |
| ○人間から地球へのおわび        | ○オゾン層が今大ピンチ     |
| ～こわした地球を今もと通りに 世界編～ | ○日本の資源、汚染問題     |
| ○地球のために今、人間ができること   | ○ひとりの心がけが今地球を救う |
| ～車編～                | ～ゴミ問題、砂漠化、森林伐採～ |

この活動を通して、自分が関心をもった環境問題のことがわかる記事を新聞から探し出すということが意欲的に行えた。調べていくうちに、今地球が置かれている現状に驚きをもって追究することができた。また、グループでの活動を行ったことにより、まとめの意見を書いたり、全体のレイアウトを決めたりするときの話し合いや、個々の記事の内容の吟味など関わり合いながら追究する姿が見られた。

全ての班の発表が終わると、子どもたちは改めて今地球が置かれている状況は危機的であり、自分たちができる簡単なことからではじめて、これ以上環境破壊が進まないようにという願いをもつことができた。

**(5) 平和に関する自分の考えを発信する場面で、自らテーマを決め意欲的に情報を収集した子どもたち**

光村の国語の教科書に「平和のとりでを築く」という広島原爆ドームがユネスコ世界遺産になるまでのあゆみを紹介した説明文がある。この学習を終えた後、平和に関する自分の考えを発信するという学習を行った。発信方法はインターネット、新聞、本等様々な種類があったが、環境に関する学習で新聞記事より自分の考えにあった記事を選び、意見を発信するという経験を持った子どもたちは、迷うことなく、新聞にて自分の考えを発信する方法を選択した。環境問題のときはグループで考えを発信したが今回は、個人で説得力のある記事を集め、その記事に基づいて考えを発信するという方法を提案した。テーマは「北朝鮮の核問題」「内戦の問題」「テロの問題」「クーデターの問題」等各自自分の一番追究したい課題にしぼって、まずは記事集めから行った。



<数多くの記事の中から取捨選択して切り抜く>



ここでも友達同士でお互いのテーマを情報交換し合い、記事をやりとりする姿があった。平和問題に関しては北朝鮮の核実験が行われたこともあり、環境問題に比べ、記事が多いので、子どもたちも数多くある戦争関連記事の中から、自分が発信しようとする内容に一致するものを取捨選択する作業が大変そうだった。

現在もこの学習は継続中であるが、仕上がったら学年の廊下に掲示して自分たちの考えを同学年に発信する予定である。

<切り抜いた記事をレイアウトし、自分なりの新聞を再構築する>

### (6) 正月休みの宿題でファミリーフォーカスに取り組んだ子どもたち

正月休みの宿題として、普段行っているスクラップ+1日分だけ親の意見ももらう日を設定した。自分で今一番興味のあることに注目し、記事を選択すると共に、自分なりの考えを自分なりの表現方法で書き、それに対して親にも一言感想を記入してもらうというものである。

各自自由に様々なテーマを拾ってきたが、その中でも多かったのが「環境問題」に関することと「いじめ」に関することだった。どの作品も大変な力作で、子どもたちの記事を選択する目、記事に対する自分の意見を表現する力が確実に伸びていることを感じた。また、両親も大変好意的に協力してくださり、父母両方の意見が書いてある作品も少なくなかった。いじめ問題の記事を取り上げた子の作品を紹介する。

#### 「命の重さ 聞いて書いて」



#### この記事を選んだ理由

今、この世の中では、いじめ問題の記事がいつでもあるような気がします。そして今、新聞を広げて1p、1p見てみると「命の重さ、聞いて書いて」という見出しが私の目に飛び込んできました。なので私は、この記事を選びました。

#### 自分の意見

私はこの記事を見たとき、「命の重さ」という見出しが一番最初に飛び込んで来ました。私はそのとき「命の重さって何」と疑問を感じてきました。なのでこの記事をよくよく見てみました。するとこの記事は、いじめ問題のことでした。最初の「なぜ」の意味が全然わかんなかった私。でもその先を読んでみると、このなぜは、周囲の友達はどうして先生や親に言わなかったのだろう、なぜその子は周りの人に相談できなかったのだろう、私は言えるわけないと思った。なんとなくだけれどその気持ちは変わらなかった。 中略  
私もいじめられたらそんなのに負けないように胸を張って生きたいと思えるようになりました。この記事はこれからの私の人生を変えていくような気がします。

#### 親の感想 (父親)

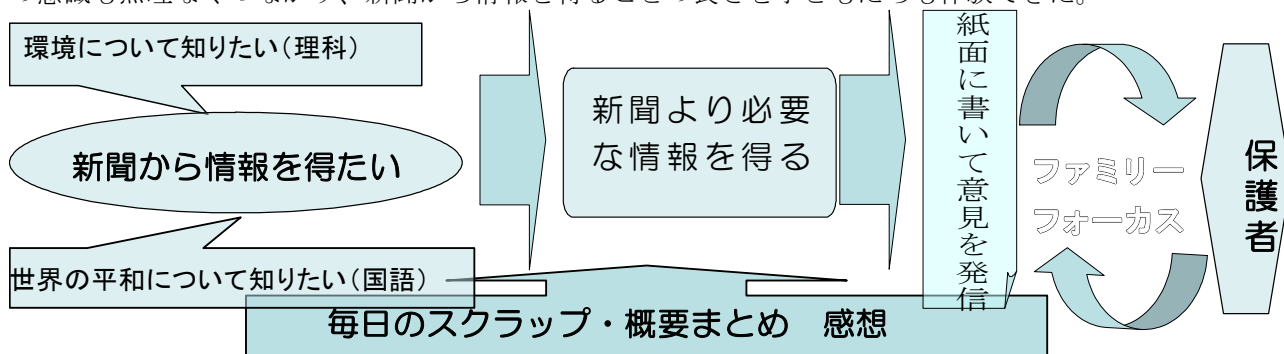
この記事を読むと、先生方が子どもに、いじめは悪いこと、そして命の重さ、尊さ、また人生の生き方を教える苦労が感じられると共に、先生の熱血漢が感じられる。先生方が苦労するのも家庭教育に問題があると思う。いじめや命の重さは本来親がきちんと教えるべきものと思う。子どもの書いた選んだ理由を読むと、毎日新聞を開いて書いているスクラップがいい勉強になっていると感じた。また、感想を読むと、命を大切にしながら前向きに生きていってくれることを信じたい。 後略



### 三 総合考察

#### 1 情報を得る活動

情報を得る活動として、6年生を中心に本年度は次のような活動を行った。①毎日のスクラップ作り、②環境問題に関する記事集め、③平和問題に関する記事集め、④ファミリーフォーカスによる気に入った記事の選択。以上の4つの活動を行ってきたが、①毎日のスクラップ作りが他の3つの活動を支えていた。新聞が読めるから、情報を集めることができる。どこに何が書いてあるかわかるから情報を集めることができる。インターネットと比べ、今現在起こっている話題を的確に選択できるので、今の社会の現状に子どもたちの目が向いていった。新聞に慣れ親しみ、自分から調べたいという気持ちになれば、情報を得る活動は抵抗なく行える。環境問題、平和問題は教科学習からスタートし、もっと調べたいという子どもの願いと一致したことが主体的な追究を支えたと考える。教科学習の発展として行った活動は、子どもたちの意識も無理なくつながり、新聞から情報を得ることの良さを子どもたちも体験できた。



保護者を巻き込んだファミリーフォーカスも、子どもと共に社会に目を向けることができ、予想以上に保護者がしっかりと書いてくれて、子どもと共に関心を示してくれていることがわかり、有効性が高い可能性を示した。

#### 2 表現力を学ぶ活動

表現力を学ぶ活動としては、プロの新聞記者を招いて新聞作りの実際を教えていただいたことが大きかった。それまでは考えもしなかったレイアウトの仕方を的確に教わり、見易い形式で書けるようになった。また、良い作品を多数紹介することにより、その中から表現力を学ぶ力が伸びた。さらには毎日目を通して新聞から、見出しの付け方、見出しの文言等を自然と身につけていった。そのため、環境問題の記事をまとめたときには、新聞の題名は何を指導しなくても、自ずと説得力のある工夫された題名になった。

時代の区分ごとに行っている新聞作りも、内容が会を重ねるごとに濃い物になっていき、その中にも記者に教わったことの取り入れや、友達の表現力の良さを取り入れる姿が見られた。

#### 3 自分なりの方法で表現する活動

いじめの記事を読んだ子の意見

「私もいじめられたらそんなのに負けないように胸を張って生きたいと思うようになりました。この記事はこれからの私の人生を変えていくような気がします。」

環境問題の子の意見

「環境が人間と関係していることはうれしいことではなく、悲しいことなんだとわかりました。この先私たちが長く住んでいくところだから、この地球をがんばっていろいろな方法で少しずつ二酸化炭素を減らし、野生生物等を増やしていきたいと思います。」

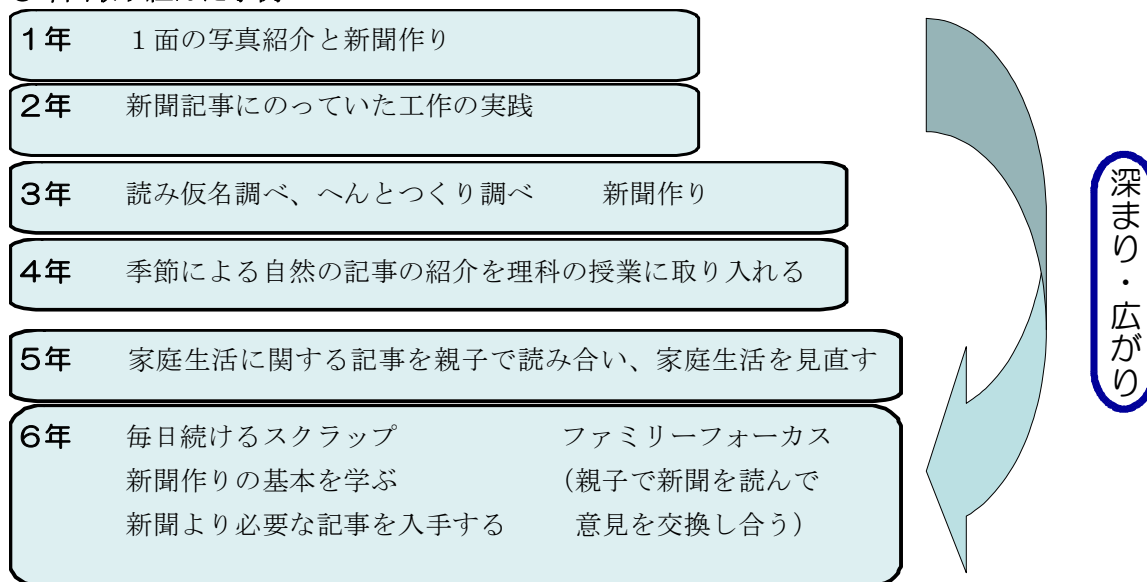
このように、新聞記事から自分なりの意見を持ち、堂々と記述できるようになってきている。これは毎日のスクラップ作りで必ず感想を書いていたことも影響しているだろうし、環境問題や平和問題で新聞記事から情報を得る活動を行い、自分なりの意見を書いたり、友達の発信する意見を聞いたりしたことも影

響しているだろう。いずれにしても、今この社会で起きていることに目が向き、そのことに対して自分なりの意見を持ち、新聞に書くという形で発信できるようになってきている。

#### 4 各学年の新聞を取り入れた活動

本年度、初めて取り組んだN I E、教育に新聞を取り入れる活動であるが、全学年を通して何らかの形で取り入れることが可能であるということが明らかになってきている。1年生は1年生なりの使い方があり、6年生は6年生なりの使い方があった。また、取り入れたことにより成果を上げることができている。ただし、子どもが本気になってくいつて来るかどうかは、教材化にかかってくる部分が多い。それぞれの学年に応じた新聞の使い方を考えて実践してみて、発達段階に応じた使い方が少し明らかになった。まだまだ研究を進めればいろんな使い方があるかと考えられる。

##### ○今回取り組んだ事例



#### 四 研究の成果と反省

2学期の通知票の保護者の返事に次のような一文があった。「6年生になって、切り抜き新聞作りを通して本当に文章力がついたと思います。ありがとうございます。」また、冬休みに行ったファミリーフォーカスの親のコメントには「子どもが記事を選んだ理由を読むと、毎日新聞を開いて書いているスクラップがいい勉強になっていると思う」というコメントが寄せられている。子どもたちは毎日新聞を広げることにより、「世の中で今起きていることがわかるようになった、いろんなことに興味を持てるようになった」「新聞作りがだいぶ上達した」というような感想をもっている。

卒業文集の校正を行うのは、今回で7回目になるが、今までで一番校正内容が少ない。レイアウトにしても、誤字脱字にしても、今までの経験では朱を数多く入れてきたが、今回はほとんど入れる子がないということに直面した。新聞を毎日読んでいること、レイアウトを気にした新聞作りに1年間取り組んできた成果が、このような形で現れたに違いないと考える。

新聞を教育に取り入れることにより、このように確実に力は伸びてきていると考えるが、この力が果たして本当に新聞を取り入れたからついた力なのか、他の学習でもつくことは可能なのかということが明らかにはなっていない。新聞を取り入れたからこそ良かったという評価方法を明確にしていく必要がある。